

インタビュー

マキタ社長

後藤 昌彦氏

日本の生産拠点をどう位置付けていますか。
「新製品の開発と生産技術を磨くマザーワーク場だ。新製品をすぐに海外で生産する」と日本で生産し、工場の現場で改善活動を進め、生産手法を確立する

電動工具で国内トップクラスのシェアを誇るマキタ。1970年に米国に販売子会社を設立したのを皮切りに、現在では30カ国以上、40社を超える海外子会社がある。95年に稼働した中国市場を中心に海外生産を進めており、10年3月期の海外生産比率(台数比)は実に83・2%に達する。グローバル展開に積極的ながら日本でのモノづくりも重視する後藤昌彦社長に日本でモノを作る意義や新興国戦略について聞いた。

(名古屋・高橋友基)



新製品はまず日本で生産し、生産手法を確立する。海外展開はその後だ...と後藤さん

中小も海外展開不可欠に

「資力の乏しい中小企業が単独で海外に進出するには確かに難しい。同業者は、2社が合併して日本で工場を集約し、両社が持つ工場を加工する工場を稼働する」

日本は技術磨くマザーワーク場

本でのモノづくりは重要な課題は、製造業の海外シフトが進んでいます。日本の製造業は、大手メーカーはグローバル展開しているが、中小企業の海外進出は全般的に見て進んでいるとはいえない。日本の製造業が直面する内円高と労務費の高さは以前からわかつていただけで、多くの中小企業が海外進出しなかった。当社が中国生産を始めた時に、サプライヤーは、人材の面から見て、もう少し現地でモノを作ることを重視する後藤昌彦社長に日本でモノを作る意義や新興国戦略について聞いた。

電動工具で国内トップクラスのシェアを誇るマキタ。1970年に米国に販売子会社を設立したのを皮切りに、現在では30カ国以上、40社を超える海外子会社がある。95年に稼働した中国市場を中心に海外生産を進めており、10年3月期の海外生産比率(台数比)は実に83・2%に達する。グローバル展開に積極的ながら日本でのモノづくりも重視する後藤昌彦社長に日本でモノを作る意義や新興国戦略について聞いた。

中部地域の経済はリマシンショック後の世界的な需要減少から、新興国市場の拡大などに伴い持ち直しつつあった。だが3月11日に発生した東日本大震災による市場への被害が中部企業にも影響を及ぼしておきが活発になっている。小沢正俊中部生産性本部会長に中部地域の経済の現状、同本部が地域産業の発展に果たすべき役割などを聞いた。

(名古屋・高橋友基)

東日本大震災の影響が中部地域の企業に広がっています。中部地域の産業は自動車の比率が高い。特に自動車の依存度が高く、震災で部品が供給されずに生産で

生産性高めコスト競争力を

さないなど中部地域への影響は予想以上だった。リマン・ショック並みの影響とみている。震災によりサプライチェーンの分散化が起きた。製造業がさらに空洞化する懸念がある。中

「リーマン・ショック時

小企業への震災の影響も大きくなると、先行きに対する不透明感から資金繰りへの対応が必要だ」

震災への影響も含め、部経済の見通しをどう見るまでも戻るとみている

生産の海外シフトが進んでいます。

「日本のモノづくりの問題はコストの高さ、新興国市場が拡大する中、高価な製品や部品は新興国では売れない。いかに生産コストを下げるかがカギで、生産性で言えば現在より30%は向上させなければならない」

日本企業にはリードタイムを短縮するなどす

る。日本企業にはリード

時間の回復までそれほど時間がかかるらしい。中部地域の製造業は元々は厳しい水準だが、サプライチェーンが回復すれば、7ヶ月くらいから徐々に回復し、10ヶ月くらいから売上高で前年同月比7・8割程度の水準まで戻るとみている

生産の海外シフトが進んでいます。

「日本のモノづくりの問題はコストの高さ、新興国市場が拡大する中、高価な製品や部品は新興国では売れない。いかに生産コストを下げるかがカギで、生産性で言えば現在より30%は向上させなければならない」

日本企業にはリード

時間の回復までそれほど時間がかかるらしい。中部地域の製造業は元々は厳しい水準だが、サプライチェーンが回復すれば、7ヶ月くらいから徐々に回復し、10ヶ月くらいから売上高で前年同